

e-ビーフNEWS 北の牧場から

May 2023

十勝の春の嵐

強い風が一日中吹いています。2週間も早く咲いた桜が散ってゆく。昼の気温が20℃越しもあるのに、雪を被った蒼い日高山脈からの吹き降ろす冷たい強い風に、身が震えます。寒暖差が大きいですね。老体には応えませぬ。朝は4時からうっすらとお日様が顔を出します。一斉に鳥たちのさえずりが始まり騒がしくなります。事務所の換気扇には例年通り、ツバメならずセグロセキレイが巣作りを始めました。1ヶ月は占領されます。

十勝の農作業も、よーいドン。トラクターや作業機が活発に動き回り畑起こしを開始しました。耕起し終わった黒い畑から湯気がもくもく湧き上がっています。この土が舞い上がってブラックアウト現象になるのですが、今年

は水分が多いのか今のところ発生が見当たらない。わが牧場も熟成した堆肥散布、耕起と農産開始。デントコーンの播種まで暫し作業が進みます。中旬の放牧開始に向け牧柵修理が始まりました。



活動のお知らせ

- 4/11(火) 北海道短角牛振興協議会 令和5年総会 北海道大学農学部
4/13(木) HOBA北海道オーガニックビーフ振興協議会第7回総会 とかちプラザ
6/ 9(金) 第24回定期総会(特定非営利活動法人および肉牛飼養技術研修会)の開催
13:00~16:30 新得町 北海道立総合研究機構 畜産試験場 1階 講堂 ハイブリット形式 Zoom(岩上さんセッティング)
《プログラム》
1) 第24回定期総会(13:00~14:00)
(1) 2022年度事業報告・決算報告
(2) 2023年度事業計画(案)・予算(案)
(3) その他 役員改選
2) 肉牛飼養技術研修会(14:00~16:30)
・宮北牧場 アンガス牛枝肉600kg生産の挑戦
・引き続き e-びーふ牧場(北の牧場舎)の飼養・肉質分析
日本獣医生命科学大 動物栄養学教室 柴田昌宏教授

NEWSばか読み

- 政府 給食無償化で制度設計調査開始4/1:早くやろうよ
- 英国のTPP加入実質合意4/1:エリア外効果いかに?
- 指定団体 加工向け乳価値上げ実施4/1:追いつかず
- 農水省 畜産関連施設の規制緩和拡大 倉庫や貯蔵施設も
4/3:コスト低減歓迎
- 22年飼料作物2%増の102万ha 飼料米増4/3:自給率増
- 23年肉専マルキン生産者負最大の2.3万円4/5:負担金負担
- WTO 22年世界貿易量が1.7%伸び 過去最低4/7:縮小
- 農業会議所22年集計 田畑相場下落買い手減少
4/10:農業魅力が低下?
- 東京商工リサーチ 22年企業倒産件数が3年ぶりに増加
4/11:コロナ債務が
- 愛媛「あかね和牛」赤身主体のブランド化4/12:赤身ブランドなるか
- 農林大臣 スギ花粉症緩和米の対応検討示唆4/12:可能性の追求
- 総務省 22年人口56万人減 日本人75万人減4/13:人口減が現実に
- 生分解マルチ面積が4%増加 安価薄手製品が貢献
4/13:減農薬が進むか
- USDA4月予測 世界のコーン生産が6%減 アルゼンチン高温不作
4/14:穀物相場
- 米国テキサス酪農家 メタンガス爆発で牛18,000頭死亡4/15:憤死
- 生乳生産22年707万t昨対2.2%減4年ぶりに減少 生産抑制離
農が影響4/18:影響はこれから始まる
- 食品値上げ 今年に入り2万点昨年上回るペース
4/19:庶民生活にジワリ
- ステレス値上げで外食使用が減少 食肉在庫が最大
4/19:これまたジワリ
- 22年子実コーン面積1.5倍に 都府県の伸びが顕著
4/20:ベースがまだ低い

- ホクレン飲料乳 8月から10円値上げ加工乳合算では2円程度
4/21:厳しさ続く
- 22年貿易統計 食品輸出が1兆円超し貿易赤字21兆円過去最大
円安影響4/21:
- 冷凍食品出荷額が7639億円過去最高 家族用好調
4/22:簡便化定着化
- 総務省 3月消費者物価3.1%上昇 資源高
4/22:庶民が置いて行かれる
- 環境省 21年度温室効果ガス2%増 8年ぶりに増えるコロナ回復
4/22:経済同友会
- G7農相会合 持続可能な農業模索 食糧安保へ
4/24:実効性を持つ
- 政府 農業部門の外国人労働者の拡大へ4/25:
- ドーナツ再ブーム 国産原料の使用増へ4/25:需要拡大に
- 別海町 乳量日本一のバイオマス産業都市構想へ消化液の利用拡大
4/25:つながるか
- JA全農 埼玉久喜に巨大冷蔵冷凍庫竣工4/26:物流を握る
- 千葉いずみ市 学校給食の無償化 地元産有機米を使用拡大
4/27:行政に導入評価
- JAこばやし セリ市場で乳牛リンパ腫表示開始 清浄化推進
4/27:拡大すれば
- 「せかいのおさく」全国ロードショー開始 循環型農業の起点
4/27:見よう
- 国会 原発60年運転可能法案通過4/28:次世代への汚点追加
- 農水省 食糧危機への備えで法案整備検討4/29:真剣さが問われる
- 日本有機加工食品コンソーシアム発足 有機のニーズや販路の共有化
4/29:期待できるか
- 観光庁 3月宿泊者がコロナ以降最大の伸び 5000万人
4/30:動き止まらず

ホルス

販売状況決して良好ではなくGW前納品前倒し等でやや活発に動くレベル。相場は市場生体は@1000台上場も搬入は@900台と値差あり。頭数は慢性的に少ないために販売低艇も大きな余剰無し。パーツはGW明けまでロス不足もカタローは不調。赤身は慢性的に不足もタイミングで発生可能性有り、切落しは順調。頭数の取り扱い減から産地はセット販売率上げパーツ発生率抑制している。GW明けの荷動きが不透明。

経産牛

経産牛相場は上げ基調での推移。上々頭数は当初予測より大幅に減傾向で、例年より取扱い頭数少ない印象。この先も頭数の像は見込み弱く、販売は一定維持しているため各社在庫逼迫。パーツの引合も一定維持し、赤身中心にバラ系も逼迫。挽き材の引合も引き続き強く各産地在庫余力少ない模様。年度明けて在庫数量少なく、引合は強いことから価格改定可能性。

左先生の畜産学研究NEWS

1. 畜産技術815号(2023.4)

(1)研究レポート1:培養ステーキ肉作成の課題とこれから(島亜衣、東大)

培養肉の研究は2013年オランダのマークポストが牛筋芽細胞を培養してミンチ肉のハンバーガーパテを作製したことに始まり、わが国でもシート状の組織を積層して両端をアンカで把持し、細胞培養の組織工学技術に不可欠な血清代替物の開発や実験用試薬・抗生物質の選択と用量の検討など幾多の工夫を重ねて、厚みのある食べられる培養肉の作製に至りました。この培養肉の評価は「牛肉のように旨味や塩味を感じる」というものでさらなる発展が期待されています。今後の培養肉研究の課題は、可食材料のみで生体組織を作り、筋細胞以外の細胞(脂肪など)を導入するなどへの展開があります。細胞培養工学技術は医学分野のみならず畜産分野に於いても発展が期待されています。

(2)技術情報2:国産飼料増産に資する品種の紹介(PI2008、みとりゆたか、わせじまん、北海わかば)(佐藤尚、九沖農研セ)

わが国の農畜産業は飼料や肥料などの資材を海外に依存しており、畜産物生産には良質な国産飼料の安定的な供給が不可欠です。農研機構が最近育成した飼料作物の4品種は以下の通りです。PI2008:(トウモロコシ)、九沖農研と雪印種苗(株)の共同育成(販売名;スノーデントおとは)で中生の晩品種で使い勝手が良い品種です。みとりゆたか:(トウモロコシ)、北農研が育成し、子実生産利用が可能、乾雌穂性が「高ホルルクロップサイレージに適、根腐病抵抗性に難ありです。わせじまん(オーチャードグラス)北海道・東北農研と雪印種苗(株)で共同育成し飼料品質を改良しました。放牧と採草の兼用が可能です。北海若葉(アルファルファ)道内の重要マメ科牧草で、トラクタなどの踏圧に強く、多収です。

(3)用語解説:フランスのエガリムⅡ法の目的と仕組み-生産費を考慮した公正な農産物価格の形成-(新山陽子、京大)

フランスは農業者の家族労働報酬や減価償却費などの報酬保護を目指してエガリムⅡ法を制定しました。生産費を考慮した価格形成を図る契約方式の導入を義務化しました。これにより生産費や市場価格が変動すると価格に自動的に反映できるとしています。フランスの事情とは異なり、日本の農業生産者が生産資材導入や農産物の販売で依存している農協体制であっても生産費用を考慮した公正な価格形成の国家的体制が必要です。

2.日本産肉研究会シンポジウム「なぜ放牧牛肉は普及しないのか」於:北海道大学

(1)ニュージーランドの放牧牛肉の歩みと現状 D.Allen氏(NZ大使館) ニュージーランドにおける家畜の放牧システムは高品質の牧草に依存し、政府のサポート体制もその自然を活用・維持しています。

(2)流通業者から生産者へ 花房 俊一氏(北の牧場舎)

放牧牛肉は売れないわけではないという固い信念と、ポジティブな姿勢がみられ、これからの農業を考える人を育てることに力点を感じます。

(3)元大学職員が取り組む大学ブランド事業-北大短角牛の事例-佐々木 学氏(わか)

大学ブランドを活用しての短角牛を消費者の赤身肉志向に載せた大学の販売事業による短角牛の普及活動の意気込みです。

(4)わが国の持続可能な畜産 正木 卓氏(酪大)

肉牛生産構造の中で担い手の確保は喫緊の課題で行政の役割が大きいです。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2022

話題提供「脱炭素循環牧場・地域を目指す」3回シリーズ①

十勝清水町 放牧酪農家 出田牧場 出田基子氏

第19回 資源循環型肉牛生産シンポジウム2022
「脱炭素社会における畜産を考える」

「脱炭素循環牧場・
地域を目指す」

放牧酪農家 十勝清水町 出田牧場 出田基子



出田牧場の経営理念

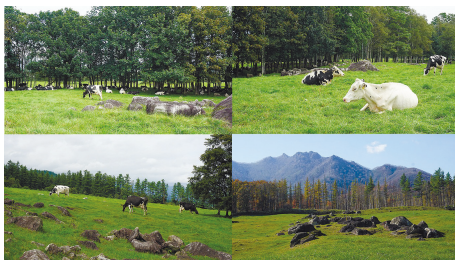
「人間の食糧と競合する穀物に頼らず、
牧草と畑作の副産物とで、
安全・良質・低コストの生乳を生産する」



出田牧場が出来るまで

～ゼロからのスタート～

- 夫は熊本県、私は岡山県出身
- 戦後のひもじい思いから、世の中で一番大切な仕事は食糧を生産する農業だと確信
- 新規就農を実現するために考えた方法は、「山で」「放牧で」牛を飼うこと
- 就農当初からの一貫した飼料設計「タンパクは牧草から」「カロリーは副産物の粕類(デンプン粕・ビートパルプ)から」



転載・再利用は固くお断りします